

令和3年度第2回利府町民会議

日時：令和3年11月20日（土曜日）
午後6時から午後7時45分まで
場所：文化交流センター「リフノス」

利府町民会議グループワーク グループ①

○生活環境

- ・利府駅が東北本線の終点であることが、足を運ぶ機会を無くしている理由のひとつではないかと住んでいて感じる。グランディ、富谷、泉へと続く交通アクセスがあれば、仙台を含んだ環状線のようになり、利便性が向上するのではないか。
- ・駅が3つ、インターチェンジが4つといっても、生活していて交通アクセスが悪いと感じる。
- ・電車からバスに乗り換えるときのダイヤを改善すべき。
- ・交通渋滞が多く、イオン新利府などがオープンしてからさらに渋滞がひどくなっている。
- ・利府町に来た人が渋滞を見て、住むには不便だと思ってしまわないよう、特にイベント時に使われているようなところで道を増やす。
- ・駅からグランディまでの道が悪く、暗い。
- ・リフレの利用が少ないのはバスがないからではないか。ダイヤの改定で駅前の賑わいにも繋がる。

○子育て・教育

- ・スポーツ・文化は充実しているが、教育面が弱いと感じる。大学を受け入れ、若い人が利府の良さを経験すれば、一度利府町を離れても、また戻ってくるのではないか。
- ・教育環境について、魅力化・差別化があれば、住みたいと思ってもらえるきっかけになる。
- ・子育てしたいと思ってもらえるように子育て世代に対して税制優遇を行い、それによって町外にアピールしていく。

○産業・観光

- ・新しい職場の創造が必要。併せて駅裏や春日、葉山を開発し、工場等を誘致していくべき。
- ・商業施設が充実しており、ほかにも負けないアピールポイントになっている。

そこで、パークアンドライドできるような環境を、土地がないながらも整えること事ができれば住みやすさに繋がるのではないか。

- ・グランディの駐車場がすぐに閉まってしまうのがもったいなく感じる。コンサートなどがなくても人が来るような施設があれば。(BBQ、温泉施設など)
- ・駅からグランディまでの道を楽しいものにする。(お金を落としてもらえよう、地場産品などを販売)
- ・tsumiki に入りづらさを感じる。多賀城図書館のように休憩場所としての使われ方や、テレワークスペースとしての利用も検討すべき。普段関わりのない人と関わることで刺激となる。
- ・子ども達が利府町から出てしまうので、I ターン、U ターンしてもらえように。
- ・工場になると広大な土地が必要となるが、IT、ICT 企業であれば場所を取らずに誘致が可能ではないか。

○芸術・文化・生きがい

- ・スポーツ施設は充実しているものの、文化的な公共施設が少ない。
- ・利府町の歴史的なことが PR されていない。

○協働・行政

- ・人口増には受け皿が必要であるが、土地の問題などもある。新利府あたりにマンションが建てば良いのではないか。
- ・コンパクトシティ化が必要。

○その他

- ・葉山に小学校ができるという話があったが、実現されなかった。有言実行し、利府町の粗を1つずつ潰すことが町のアピールに繋がる。
- ・葉山を再開発し、小学校を設立すれば定住者が増えると考える。
- ・若い人が家を買えない状況。(土地代を含めて5,000万円以上)
- ・電車の待ち時間にレストランの利用や、お土産の購入などができるよう、1階にはお店、2階以上は居住スペースとなっているような駅ビルがあれば生活しやすい。

利府町民会議グループワーク グループ②

○生活環境

- ・駅備え付きのマンションがあると良い。駅前が栄えれば町全体に人が増える。

- ・電車、バスの本数をとにかく増やしてほしいというのが一番の願いであり、交通の便が良くなれば人も増えると思う。(イオン北館に町民バスを通してほしい)
- ・段階的に人口を増やして、一気に高齢化しない取組をする。
- ・平地で駅まで徒歩5分、近くに銀行、店舗、医療等を配置し、シニアマーケットを取り込むなど、シニアが暮らしやすい街づくりに特化する。(どこにもない街づくり)
- ・高齢者の3つの不安要素：経済、孤独、健康 3つの不安要素どうするか考える。

○子育て・教育

- ・高校、大学が地域内にあって選択肢が増えると、交流人口が増え、交通の便が充実することにもつながる。
- ・首都圏から大学、専門学校等を誘致し、学生寮も整備することで定住に繋げる。また、子ども達が集まる学習環境を用意することで、ハード面が準備できているとセールスができる。

○産業・観光

- ・商工業が開発され、雇用が増えれば人口が増える。
- ・利府高生は仙台に行かなくても十分にそろっていると感じている。
- ・梨団地構想。利府梨は130年前から有名、梨団地をつくり産業の活性化を行う。

○協働・行政

- ・地域で人とのつながりを持っていくことに充実感を感じているため、「人が良い」というのは定住につながると考える。
- ・町外の人から、「利府町はコロナの対応や10万円の給付が早くて良い。住みたい。」という声を聞いた。

○その他

- ・定住には住宅価格、交通の利便性を重視することから、土地が高い利府で住宅を建てようとは思わずらく、ハードルが高い。
- ・祭りのように地域ぐるみで絆を深められる、誰一人取り残さない、全世代が認められるような政策が必要。
- ・交流人口は多いが定住する人が少ないので、イオン内に利府のPRブースをつくる、海の駅や道の駅を整備してPRするなど、住んでもらうためのPRが必要。
- ・SNSを使ってPRする。

- ・「シニアが暮らしやすい」というキャッチコピーで宣伝する。
- ・「人が家を買うタイミング」をしっかりと分析する。
- ・自然との共存は不可欠であり、自然を生かして町と地域で作った住宅街があると人が来やすい。ただ、タワーマンションを建てれば良いというものではない。
- ・利府は中学生までは子育てにやさしい町だが、高校生、大学生にも何かあればいい。

利府町民会議グループワーク グループ③

○生活環境

- ・人口が増えたときのアクセスを考えるべき。
- ・生活のしやすさが第一。(保育所、職場、駅の近さで選ぶ)
- ・荒井に見られるように、アクセスが良ければ町が発展してくる。(東西線)
- ・利府から仙台までの鉄道が少ない。
- ・しらかし台にバスがない。
- ・体調を崩し、運転できないときにバスやタクシーがないのが不便。
- ・団地は便利だが、ほかの団地やリフノスなどの公共施設、買い物等に行くことが難しい。
- ・葉山について、部活や塾など帰宅の時間が様々であるのにバスがなく、交通の便が悪い。

○子育て・教育

- ・町の学力が低いため、勉強できる場所を増やす必要がある。具体的には、リフノスの利用時間を22時まで増やし、WiFiを設置するなどが挙げられる。
- ・町と密接した教育(ブラザーシップ「町はひとつの学校」)はよいと思う。
- ・教育施設を充実すべき。
- ・教育やスポーツなどで特色ある学校があると、転入者が増えることにつながるのでは。(熊本のラグビーが強い高校:外れの町でも特色がある。)
- ・田園がなく、自然と触れ合えなくなっている。

○安心・安全

- ・街灯がなく危険

○芸術・文化・生きがい

- ・図書館をゆっくり座って滞在できるように改善する。

○協働・行政

・高齢者に対する政策がなく、高齢者が見捨てられたというイメージがある。高齢者が見捨てられたところには住みたくない、若者が流出してしまうことにつながるのではないか。

○その他

- ・田んぼを埋めて、住宅を増やす。
- ・利府町にしかないものが欲しい。
- ・利府町から離れたいたいと思っている人がいる。
- ・デイサービスなどを行う階や居住階など、階層を分けたタワーマンションを建てることで、居住地の確保と雇用の促進につながるのではないか。
- ・都市化×自然を考えていくべき。利府の自然の良さを引き出せていないことから、魅力を引き出せる施設としてキャンプ場はどうか。人が集まる施設ができるとインフラの整備が進む。

総評

交通アクセスについては意見として出されていたが、病院については出ていなかったように感じる。以前、松島町で、二市三町で住みやすい町はどこかとアンケートを取ったことがあるが、そこでは利府町が突き抜けて評価が良かった。その一番の理由は病院が多いからだという。そういった面では、利府町は恵まれているということをおきたい。

意見として、大学や専門学校の誘致といったワードが出ていたが、具体的にはどういう大学がいいのか。山形県の庄内には慶応義塾大学があり、宮城県に早稲田大学があれば東北で早慶戦のようになる。また、専門学校では、今は動物関係の専門学校が人気であり、料理関係の専門学校は一時期から人気が続いている。このように、具体的に考えていきたい。また、こういう学校を誘致して欲しいという具体案があれば誘致活動も動きやすい。

カラオケやスーパー銭湯といった、全世代が楽しめる施設が欲しいという意見を、小学生や高齢者まで幅広い世代からよく聞く。第一興商さんにそういった施設を作りたいと伝えたところ、建物を建ててくれる人がいればいつでも来ますよと言われた。やはり、どのように土地を、活用や開発、切り開いていくかが壁となっている。それは、住宅地や工業団地にもつながった話である。

子育てのトップランナーとして他自治体にアイデアを教えていたところ、いつの間にか、ビハインドになってしまった利府町の子育て環境を打開しようと、昨日、子育て世代との座談会を開催し、非常に勉強になった。土曜日に児童館が開いていない宮城県の自治体がほとんどないことから、子育てにおいて

利府町が遅れていることが分かる。そういったことも人口増を考えるのであれば、不便極まりない。なぜなら、今の若い世代はほとんどが共働きであり、子どもを育てる際に、仕事を辞めるという選択をせざるを得ないからである。これは産業政策にもつながっている。利府町では、ホテルや自動車会社、工業団地の大型物流倉庫など雇用を創出しているが、子どもを預けることができなければ働くことはできない。少し前までは、子どもの預け先として祖父母を前提に考え、政策を組み立てていたが、家族だけで転入してきた子育て世帯に対してどのような行政サービスを提供できるのか、産業・雇用政策を含めて考えていく必要がある。また、移住を考える上で教育レベルも重要になってくる。総合的・包括的な政策パッケージのようなもの打ち出し、人口を増やしていくのか検討していく上で、皆さんの意見を聞き、ヒントをいただいたと思っている。公共交通機関は突破口だと思うが、むしろそれを踏まえながらその先の行政サービスをどのように提供するかを考えていかなければならない。

一気に増えた新興住宅の住民が高齢化してきている、難しい時期に利府町は来ている。そのカバーをしつつ、若い世代を受け入れていかなければならない、全国でも珍しい町だと思うので、皆様の協力が必要である。人口増に向けた提案について、今回の会議だけでなく、様々な世代、職種の方の意見を聞きたいと思っている。利府町の人口増について、第一段階として、利府町をまずは知ってもらい、第二段階では来てもらう、そして第三段階で住んでもらうというシンプルな三段階で考えており、この三段階をもとにどのように政策を進めていくのか、受け皿を用意するのかを検討していく。駅・インターチェンジの活用について、テーマ別に開催することも視野に入れ、利府町の規模でインターチェンジが4つあること、イベントが開催されるグランディがあることなどを活かし切れているのかなどを皆さんと考えていきたい。今後、さらに積極的にセールスを行っていきたいと思っているが、そのベースとなるのは皆さんの意見であるので、テーマ別にこういった会議を開催していきたい。